

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4792200018
法人名	社会福祉法人 祥永会 グループホーム よみたん ふくぎの里
所在地	〒904-0302 沖縄県中頭郡読谷村字喜名2272番地4 (電話) 098-958-7771
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 (沖縄県総合福祉センター西棟4F)
訪問調査日	平成20年10月7日(火)

【情報提供票より】(H20年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り 2 階建ての 階 ~ 2 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,100 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	526 円
	夕食	554 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名嘉病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は緑の多いのどかな集落にあり、2階建ての赤瓦屋根は周辺で一際目立つ存在である。1階に小規模多機能事業所、2階がグループホームであり、両事業所は地域密着型サービスとして、運営推進会議や日頃の行事を合同で行う等よりよい交流の場になっている。敷地内は広々とした駐車場、手入れのゆきとどいた広い芝庭や、庭の一角にペットを養い、家庭的雰囲気造りと近隣の子供たちが遊びに来易いようにバスケットコートが設置されている。又、地域医療に関心の高い土地柄・かかりつけ医の協力で、利用者の8人は定期受診を往診で対応する等、ユニークな発想は利用者・家族に喜ばれている。開設1年を迎え職員は常に利用者に向き合い、質の高い介護の提供を共有するように工夫を重ねている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員ミーティングでサービス評価の意義を説明し、職員一人ひとりが自己評価に取り組んだ。日々の介護の確認や気付きも多く、又、事業所が今後力を入れる点、見直しなどの気付きもあり、今後に生かしていきたい。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回実施され、構成メンバー6人で区民代表(区長・老人会々長)有識者(社会教育委員)行政(地域包括支援センター主任ケアマネージャー)小規模多機能型居宅介護事業所の利用者・グループホーム利用者の家族代表となっている。事業所の事業計画・サービス内容・家族アンケートの報告や話し合いが主である。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族の意見や要望は、面会来所時に直接職員に話される事が多い。又サービスに関する、相談・苦情は事業所内、公的機関、更に第三者委員も設置されているが事業所内に意見箱の設置はない。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>7月に自治会に加入し、地域の祭りに参加したり、ユイマール活動(生きがい事業のミニデイサービス)に月2回利用者が3人参加している。事業所も父の日行事に近隣住民を招いたり、事業所便りを配布したり、講話を行う等交流している。今後も地域との付き合いを大切に、認知症についての勉強会・出前講座の実施に向けて取り組んでいきたい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念「自宅と同じように理想的な暮らしを支えてまいります。その人の考えを尊重し、与える介護でなく、見守る援助を提供いたします。介護知識の向上に努め個々の必要とする生活ニーズに応じたサービスを提供します」となっていますが、地域密着型サービスが目指す理念に欠けている。	○	これまでの理念を大切にしつつも、地域密着型サービスとしての視点を加えて、理念をつくり上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	車椅子のままではなく、ソファーに移してゆったりとくつろいでもらうのがあるべき姿・又入浴でも本人が出来る事は本人自身にやらせよう等、見守る援助も提供できているか等、日々の介護が理念に沿っているか、職員間でも確認しながら介護に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	7月に自治会に加入し、地域の祭りに参加したり、ユイマール活動(生きがい事業・ミニデイサービス)に月2回利用者が3人参加する等、交流している。又事業所も父の日行事に近隣住民を招いたり、事業所便りを配布したり、認知症の講話を行う等、交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は「自己評価をする事での気づきは多く、日々の介護の確認の機会となった。更に、事業所がもっと力を注ぐ点等も気づきが出来、今回の外部評価と共に来年に向けて生かしたい」と、今後の取組に意欲的である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施され、構成メンバー6人(区長・老人会長・有識者(社会教育委員)、行政(地域包括支援センター)小規模・グループホーム利用者家族代表となっている。事業所の事業計画サービス内容、家族アンケートの報告が主である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村主管課との連携は、入居者・入居希望者の状況等の情報交換を行っているが、今の所地域包括支援センターのケアマネージャー、社会福祉士、看護師との連携が多い。	○	今後は、運営推進会議の構成メンバーに村主管課にも加わってもらう等検討し、情報交換の機会を多くしていきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回独自の広報誌を配布、本人・家族の了解のもとで、ホームページにグループホームでの生活の様子を掲載し、県外に住むご家族に喜んでもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・要望は、面会時に直接、職員に話される事が多い。又、重要事項説明書では、サービスに関する相談・苦情は事業所内、公的機関さらに第三者委員の明記もされているが事業所内に意見箱の設置はない。	○	家族等の意見・苦情が必要時出しやすい環境として、事業所内の分かりやすい場所に意見箱の設置が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動は、新旧管理者が、利用者の家族宅を訪問し、又、職員の異動はその都度利用者に説明、紹介してなじみの関係をつくり、家族には面会時に説明する等、配慮した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を育てる事は重要と捉え、年次別に職員の研修計画・実施書(法人内外)が作成されている。又、新採用の職員に対しては、日々の介護を1ヶ月程度ペアで組む等、トレーニング期間を踏む事で、利用者の安心・安全な介護の提供に心がけている。		職員の学習意欲も旺盛な事から、法人外実施の認知症関連研修には欠かさず応募するが、人数制限で受講に至らない事も多く残念である。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内グループホームは当事業所のためのため、嘉手納町や創設一年目の南部のグループホームとの交流をもった。県グループホーム連絡会に8月に加入した事で、交流のネットワークが拡大しつつある。		同業者からの情報はメールでの送信があり、母体で設定された各担当委員を中心に研修も参加する等、サービスの質の向上に取り組んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と会い、馴染みの関係が作れるように工夫している。法人の施設からの入居は施設職員が電話で本人と話したり、宅老所からの入居希望者は宅老所職員が外向いて話す等、本人が安心して過ごせるよう環境づくりをした。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からおいしい調理法を教えてもらったり、方言や丁寧語など学ぶ機会が多い。又、利用者が苦にならない程度の室内活動や吹き抜けベランダに置かれたプランターの花・木に水かけして、共に語り合いながら楽しく過ごしてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志表示の出来にくい入居者に対し、行動、言葉など、記録に残し、家族の面会時に尋ねたり、更に意味不明な内容を不安そうに話される利用者の言葉は、電話で家族に確認して「亡くなった〇〇や母親の事」だと職員が理解する事で、やさしく受け止めて安心してもらった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の希望も聞きながら、利用者の普段の話題から、やりたい事を掴んで計画に組み込んでいる。尚、利用者の認知度、病状の観察と主治医からの指示を受けて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを実施し内容変更が必要な場合は家族へ確認し、見直している。緊急時はその状況によって介護計画を作成している。入居後は利用者の状態が改善されている事が多いとのことで、家族から喜ばれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ、可能な限り通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の定期受診は利用者・家族にとって大きな負担になっていることから、個々の利用者のかかりつけ医3医師と話し合いを重ね、8人の利用者は事業所内で定期診察をしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者のバイタルチェックは週1回実施され、日頃は入居者に対し事業所が対応できる最良の援助方法については常に職員間で話し合っているが、重度化・終末期に対応できる体制は確立されていない。	○	利用者の日々の細かい観察は重度化の早期発見に繋がることから、毎日のバイタルチェックは日課として位置付けて欲しい。又、終末期について不安に思っている家族もあることから、地域医療に関心の高い土地柄なので是非、家族・かかりつけ医、介護支援専門員等、関係者で話し合いを重ね終末期のあり方について個々の体制作りに取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などの個人情報は共用の場の一角やパソコン内に整理され、保管されている。個人ファイルの保管は棚にカーテンが掛けられている。申し送りは、共用の場で行う事から利用者の名前は出さずイニシャルを活用するなど工夫している。		申し送りに利用者をイニシャルで呼ぶ事に多少の不自然さを認識され、その改善と共に申し送りの場所や書類の保管等について早めに検討していただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の表情や言葉などから、どのように過ごしたかを察知し、職員間で共有している。帰宅願望の強い利用者に対し散歩に出かけ、家族の話題で話が盛り上がり、満足し、落ち着く等利用者の意向に沿うよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の状況に応じて食事の準備や片付けを一緒に行い、食卓は3テーブルに分け、静かな中にもゆっくりと味わっている雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を確認しながら行っている。週2回入浴であるが拒む利用者もあり、言葉掛けの工夫や職員を変えて行うなど、入浴したい気持ちを盛り上げている。又、入浴後コーヒータイムで楽しんでもらったりする。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出・散歩・1階の小規模多機能事業所利用者との交流等、年間行事等を通して楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望で入居以前に利用していたデイサービス利用者との交流をしたり、散歩やピクニック、バイク等一人ひとりの希望を募り、可能な限り要望に沿って対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室は鍵を掛けず過ごしている。(玄関はPM10:30~AM6:30施錠)、利用者の行動パターンを知るように努め、外出の気配があると呼び止めず見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体の災害対策マニュアルはあり、緊急時連絡網等定められているが、グループホーム独自の避難訓練は実施されていない。	○	消防署の協力を得ながら今後実施していきたい。具体的には地域の協力体制も必要な事から、運営推進会議の中でも話し合っていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるメニューは栄養バランスもよく、利用者の食事摂取量は日々記録されている。お茶や水分は必要時、各自で補っているが、自ら要求しない利用者(3人)には職員で対応している。家族が預けたヤクルト等も随時管理して与えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は全域バリアフリーであり、採光も十分に清潔感にあふれている。畳間・ゆったりタイプのソファ・大型テレビ・対面式調理場・洗面台など使いやすい工夫がなされている。壁は温かみの感じる木目調で癒やしと安らぎの場所としての工夫がなされ、家庭的な雰囲気が漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく、ベットやタンス(衣装棚)は事業所設置である。利用者は寝具など使い慣れた物を持ち込んだり、壁面を利用し、好みの写真や手工芸で作った自作の貼り絵等掲示して居心地いように過ごしているが、全体的には、馴染みの物品の持込は少ない。		